



# 子どもたちに伝えたい四ツ谷用水

「四ツ谷の水を街並みに！」市民の会

(特活) 水・環境ネット東北副代表理事 佐々木 正人

藩祖伊達政宗公は1601年、仙台城の築城に着手すると同時に、広瀬川をはさんだ東側の小高い丘に城下町を建設する事としました。それまでの居住地である岩出山から約5万人と言われる住民を移住させるための新たな城下町仙台の建設でした。

しかし仙台の町を作るにあたっては水の確保が問題でした。仙台の地形は4段の河岸段丘で構成されており、広瀬川が一番低いところを流れているため、直接水を取り入れる事は困難なのです。そこで政宗は、家臣として召し抱えていた川村孫兵衛重吉という技術者に計画を立てる様に命じたのです。孫兵衛は広瀬川上流の郷六から取水し、3つの隧道を掘り、4つの谷を木樋でわたって自然の勾配を利用して城下に引き入れ、町中に巡らす事を計画したのです。このようにして造られた人工の川(用水)が「四ツ谷用水」です。

「四ツ谷用水」の目的は防火用水、生活用水、水車用水、灌漑用水、更には雨水や家庭排水の排水路としての役割を担った多目的水路でした。

仙台城下に縦横に張り巡らされた「四ツ谷用水」は地下水を潤しました。土側溝と石積みで作られた「四ツ谷用水」は、一部が地下に浸透し地下水を補充する役割も果たしたのです。

こうして補充された豊かな地下水は浅井戸として利用された他、仙台藩が奨励した屋敷林を育成繁茂させ、町を覆う緑が後の「杜の都」と言われる仙台の原風景の元を作ったのです。

平成27年7月、NHK番組のプラタモリで放映されてから仙台の「四ツ谷用水」への関心が高まっています。

「ロケ地と同じ所を歩いてみたい」、「四ツ谷用水についてもっと知りたい」、「現地を案内してほしい」といった要望が多くなっています。ほとんどが中高年の方で、私たち「四ツ谷の水を街並みに！」市民の会としては、要請が有れば出来るだ

け要望に沿う様に説明の会員を調整していますが、何せ当会も高齢者が多く若い会員がいません。このままでは「四ツ谷用水」に関心のある方が減少して「四ツ谷用水」そのものが風化するのではないかと懸念を持っているのです。

風化を防止するためにはその歴史的価値を若者や子どもたちに伝えて、認識してもらう必要があります。

その為、市民の会としては「四ツ谷用水」の散策マップ・歌・カルタ・アニメの制作、説明用の標柱や看板の設置、更にパネル展や講演会の開催等を通して、一般市民の方は勿論、特に子ども達に関心を持ってもらえるように工夫した活動を継続しています。

その様な中で、10月11日に榴岡児童館の企画で小学校5~6年生に「四ツ谷用水」約4キロを歩いて案内しました。水が全く見えない用水路の説明でしたが、出発前に「孫兵衛と四ツ谷用水」というアニメのDVDを見てもらった事や、現地で昔の写真や地図と比較して説明し更に標柱に書かれた説明文を音読してもらった事で、子供たちは関心をもって来て活発な質問も出ました。

「四ツ谷用水」は平成28年9月に日本土木学会から土木遺産として認定されました。城下町仙台発展の基礎となり、「杜の都」の元をつくった「四ツ谷用水」です。仙台の歴史遺産として子供たちとその親御さんにも可能な限り伝えていきたいと思っています。

